

本が子どもと 大人をつなぐ “開放図書館”

学校の図書館を地域の方も利用できるようにする「開放図書館」。週に3日程度、13時～16時の間、市内の小学校の約半数で行っています。ボランティアが主体となり、工夫を凝らして運営しています。



1



2

- 1 読み聞かせが始まると、自然に物語に引き込まれていきます
- 2 読み聞かせに何度も来ると、パラパラ漫画などのプレゼントがもらえる工夫も。壁の装飾もボランティアの手作りです

学校の先生が語る開放図書館の魅力

読み聞かせの絵本をもう一度手にとって読んでみたり、ボランティアさんから本を紹介してもらったりすることで、子どもたちがどんどん本を好きになっていくのが分かります。開放

図書館では、普段の授業とは違う子どもの一面が見られるので、私たち教師にとっても大切な場になっていますよ。

開放図書館を担当している
こすが たけお
小菅 猛男先生



開放図書館のお手伝いをしませんか

子どもへの読み聞かせなど、ボランティアとして活動する方を募集している学校があります。詳しくは、各開放図書館へお問い合わせください。

札幌市 開放図書館

検索

【地域の方に聞きました!】



前田中央小で開放図書館の
ボランティア代表を務める
むらかみ ちはる
村上 千春さん

本が好きになる
きっかけをつくりたい

子どもの同級生のお母さんに誘われて、13年前から開放図書館のボランティアを続けています。

図書館での活動は、本の貸

し出しや蔵書の整理のほか、読み聞かせなどのイベントを通した、本に親しむきっかけづくりにも力を入れています。子どもやそのお母さんから、「読み聞かせ楽しかったよ」「本が好きになったよ」という声を掛けられると、うれしい気持ちになりますね。

一般的な図書館との違いは、運営を地域のボランティアおよそ50人が交代で行っていること。その多くは学校に通う

子どもを持つ親なので、自然と会話も弾みます。和気あいあいとした雰囲気が生み出す「あたたかさ」が、開放図書館の一番の魅力ではないでしょうか。

たくさん本の手に触れることで、子どもの想像力はより豊かになっていくと思います。これからも、学校やほかのボランティアの皆さんと一緒に、本の素晴らしさを子どもたちに伝えていきたいですね。